

Science Camp II H29. 8/17~20

普通科Sコース2年生のためのフィールド研修として、富山県の黒部立山で Science CampII を行いました。

今回の研修は多くの先生にご協力いただきました。星槎大学客員教授の武田康男先生から雲や雪、星空についての講義を、立山カルデラ砂防博物館の福井幸太郎先生からは氷河や火山の作る地形について、国際山岳ガイドの多賀谷治さんからは山での安全管理や心構えなどを、そして信州大学の戸田任重教授からは湧水調査の手法と立山水系についての講義を受けました。たくさんの専門的なお話をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



まずは弥陀ヶ原という湿地帯で高山植物と、池塘というため池のような地形を観察しました。ここは高所にあり、枯れた植物が分解されずに積み重なっていくために特殊な地形ができます。土壤から十分な養分を得ることが難しいので食虫植物が有利になるような環境が見られます。



左は立山の室堂平での写真です。残念ながら雲が厚く、雨も多い日程でした。こればかりは天の采配次第です。右の写真はミクリガ池の様子です。昔、水蒸気爆発が起きてできた地形です。立山が火山である証拠です。右手に白い塊が写っているのが見えますか。8月の中旬でしたがまだ雪の塊が残っていました。一年を通して涼しい場所だとわかります。



研修2日目、山を歩きながら研修場所を回ります。研修内容は火山灰層、氷河の作った地形や地層、高山植物の観察

と多岐にわたります。途中、川の水や雪の採取も行います。この日は雨が降り、雨間をぬっての研修となりました。



立山は氷河の作った地形と火山活動によってできた地形が混在する場所です。どこがどちらの影響でできたのか考えながら歩きます。高山植物も有名なチングルマを始め、リンドウ、イワカガミ、イワイチョウなど(写真はハクサントリカブト)多くの花を観察できました。蝶はベニヒカゲなどが見られました。



3日目は室堂平からロープウェイやトロリーバスを使って降りていきます。途中、黒部ダムでも研修があります。ここまで見えてきた山は、人の暮らしひとつながっています。



最終日である4日目には信州大学で戸田教授からの湧水調査の手法を学び、水系について講義を受けました。研修中に色々なところから採取した水を調べます。水に溶け混んだ成分を比較することで、何がわかるのでしょうか。講義の内容を受けて、皆で考えます。